Rotary Club of Wakayama
UNITE FOR GOOD
よいことのために手を取りあおう
2025-26年度 RI会長：フランチェスコ・アレッツォ

District2640 2025-26年度

和歌山ロータリークラブ会報

2025-26年度 会　長：松尾 泰明
幹　事：垣本 英作
S.A.A.：岩西 智宏

クラブスローガン
「繋ごう」～みらいのために～

No.3625　2月3日㈫

本日の卓話　2月3日㈫

「日本への留学という旅が、
私にくれた宝物」

米山奨学生
薛　安　達 さん

次週の卓話　2月10日㈫

「現代に生きる世阿弥の言葉」

重要無形文化財総合指定保持者
観世流能楽師
分　林　道　治 さん

先週の例会記録

ロータリーソング	和歌山ロータリー
ビジター紹介	なし
出席報告	（会員数78名、免除会員４名） 本日出席（1/27）55名 72.37％
メイキャップ	地区へ３名
S.A.A.（ニコニコ箱）	松尾泰明さん、垣本英作さん、脇坂三蔵さん、塚本貞治さん、兼田　守さん、岩西智宏さん、吉田友之さん、川端貞喜さん、中村栄三さん、星　隆公さん、村田弘至さん、紀　俊崇さん

本日合計　￥55,000
今年度累計額　￥1,586,465

（財団寄付献金箱）　松尾泰明さん、垣本英作さん
（米山奨学会献金箱）　松尾泰明さん、垣本英作さん、脇坂三蔵さん
（青少年育成奨励金）　松尾泰明さん、垣本英作さん

2月は平和構築と紛争予防月間です

喜寿のお祝い

中村栄三 会員
満77歳
（昭和24年1月22日生）

誕生日お祝い

会長あいさつ

会長　松尾泰明

昨年末、日本ゴルフ界の大スターと言われる尾崎将司選手、通称ジャンボ尾崎選手がお亡くなりになりました。先週末の24日の土曜日はご存命であれば79歳のお誕生日を迎えていたはずです。

豪快な勝ちっぷりと、際立つ強さ、そして通算113勝と誰もが追い付けない勝ち星に加えて、40歳を超えて、口が立つようになってから63勝もしているというところで、持ち前のユーモアとビックマウスでファンを魅了しました。

過去の名シーンは数えきれないくらいあると思いますが、その中で今でもすごく印象に残っているシーンがあります。1994年の日本プロゴルフ選手権、最終日最終組最終ホール。PAR４の第３打。47歳の尾崎プロは１打差の２位、トップは29歳の合田洋プロ。共にPARなら合田プロ優勝。２人ともグリーンを外して第３打はアプローチ。尾崎プロはラフからですが、合田プロはバンカー。尾崎プロが先にアプローチを１mに寄せました。

驚いたことに合田プロは、通常バンカーで使用するサンドウェッジというクラブではなく、パターを手に取りました。この瞬間、驚いた視聴者の方は多かったのではないでしょうか？　一か八か？　そんな雰囲気もありましたが、結果は見事1.5mに寄せて、パーパットを沈めて見事優勝。

決して両者のプレーが飛び切り素晴らしかったわけではありませんが、尾崎プロの追い上げが、それほどまでに合田プロのクラブ選択を迷わし、精神的に追い込んだというところが、今でも「伝説の名プレー」として語り継がれている所以だと思います。

最後のパットは合田プロの方が遠かったので先にホールアウトしてガッツポーズをしました。尾崎プロは自分のプレーがまだ残っているのにも関わらず、駆け寄って肩を抱き、合田プロを祝福しました。プレーを残した選手がこういう行動をとるのも通常では見られない光景です。

痺れに痺れ、その上でプレッシャーに打ち勝った年の離れた後輩のプレーをリスペクトした。そういうシーンであったと思います。

本当にジャンボ尾崎プロの名プレー集は沢山あります。この「伝説の名プレー」はジャンボ尾崎プロの偉大さ、人間性がとっても良く表れているシーンだと思います。

一ゴルファーとして、一ゴルフファンとしてご冥福をお祈りいたします。

会　長　報　告

第43回 米山功労クラブ　感謝状

Rotary Districts of Japan
公益財団法人 ロータリー米山記念奨学会
ロータリー日本国内全地区合同プロジェクト

米山功労クラブ
第43回 米山功労クラブ
和歌山ロータリークラブ殿
多額のご寄付に対し心から感謝の意を表します
2025年12月
公益財団法人ロータリー米山記念奨学会
理事長　若林紀男

米山記念奨学会　表彰

第９回米山功労者マルチプル　脇坂三蔵 会員
第７回米山功労者マルチプル　宮本克之 会員
第３回米山功労者マルチプル　兼田　守 会員
第３回米山功労者マルチプル　西岡千博 会員
第２回米山功労者マルチプル　松井良樹 会員

幹　事　報　告

- 例会変更のお知らせ（和歌山南RC、和歌山北RC、海南東RC、田辺RC、高野山RC）
- 本日90周年準備特別委員会（第３回）例会終了後 13：45～
- 2025-2026年度 第４回クラブ協議会
  2/17　13：45～　本日締切
- 「会長・幹事・SAA・を励ます会」 2/17　18：30～
  本日締切　※歴代会長経験者、今年度・次年度役員対象
- 水戸RC公式訪問　3/14～15　(2/3締切)
- インターシティーミーティング
  3/7㈯ 16：00～19：00　アバローム紀の国

2月プログラム予定

和歌山ロータリークラブ
出席・プログラム委員会

2月	タ イ ト ル	卓 話 者
3日	「日本への留学という旅が、私にくれた宝物」	米山奨学生 薛 安達さん
10日	「現代に生きる世阿弥の言葉」	重要無形文化財総合指定保持者　観世流能楽師 分林道治さん
17日	「午年生まれの会員卓話」	高会員、上園会員
24日	「和歌山とベトナムの交流」	和歌山ベトナム友好会 会長　浦　晴雄さん

卓　話

「和歌山県の医療体制」

上　野　雅　巳 会員
（医療法人やすだ
堀口記念病院 院長）

昨年まで私は、和歌山県立医科大学の地域医療支援センター教授として、主に和歌山県の医療体制、特に医師の数や配置、職種のバランスといった点について取り組んでまいりました。現在は立場を変え、堀口記念病院の院長として、地域医療の現場に直接関わっています。本日は、その両方の経験から、和歌山県の医療体制についてお話ししたいと思います。

まず、和歌山県全体の医師数を見ますと、人口10万人あたり約320人で、全国47都道府県の中では９位と、数字の上では比較的多い県です。そのうち女性医師は約20％を占めています。また、診療所に従事する医師の人口当たり数は全国で２位、病院勤務医でも11位と、県全体で見れば一見、医療資源は充実しているように見えます。

しかし、和歌山県を７つの医療圏に分けて詳しく見てみると、実情は大きく異なります。全国平均を上回っているのは、和歌山市を中心とした和歌山医療圏のみで、それ以外の医療圏では、特に病院勤務医の数が全国平均を下回っています。つまり、医師数の問題は「数」ではなく、「配置」の問題であることが分かります。

この偏在を是正するため、和歌山県立医科大学では、１学年100人の入学定員のうち約30人に地域枠を設け、卒業後９年間、県や大学の要請に基づいて地域で勤務してもらう制度を運用してきました。私はその制度運営にも関わってきましたが、残念ながら、中には憲法22条に定められた職業選択の自由を理由に、誓約内容が守られないケースもありました。大学としても対応を模索しましたが、必ずしも十分な解決に至らなかったというのが正直なところです。

話は変わりますが、現在私が院長を務める堀口記念病院は、「地域の皆さまが困ったときに、まず頼っていただける病院であること」を使命としています。救急医療、整形外科手術、リハビリテーション、そして健康診断。この四本柱を通じて、特別なときだけでなく、日常的に地域の皆さまに使っていただける病院でありたいと考えています。

第3回 90周年準備特別委員会 開催

2026年1月27日㈫ 例会終了後